

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

### 《週報》

第5巻第21号

第21週(5月23日～5月29日)

発行年月日:平成17年(2005年)6月3日

発行:滋賀県衛生科学センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1)全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (21週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (21週)	全国 (21週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	<sup>(*)2</sup> 4	227	9	576
	腸チフス	0	0	22	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	385	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	<sup>(*)3</sup> 22	1	34
	オウム病	0	1	24	1	39
	デング熱	0	1	12	2	45
	マラリア	0	0	25	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	1	263	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	115	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	27	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	1	399	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	21	2	85
	梅毒	0	0	196	4	516
	破傷風	0	0	31	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	30	0	49
急性脳炎	0	1	<sup>(*)3</sup> 94	1	164	

\*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含みます。

\*3:平成17年第19週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

### 2)定点把握の対象となる5類感染症

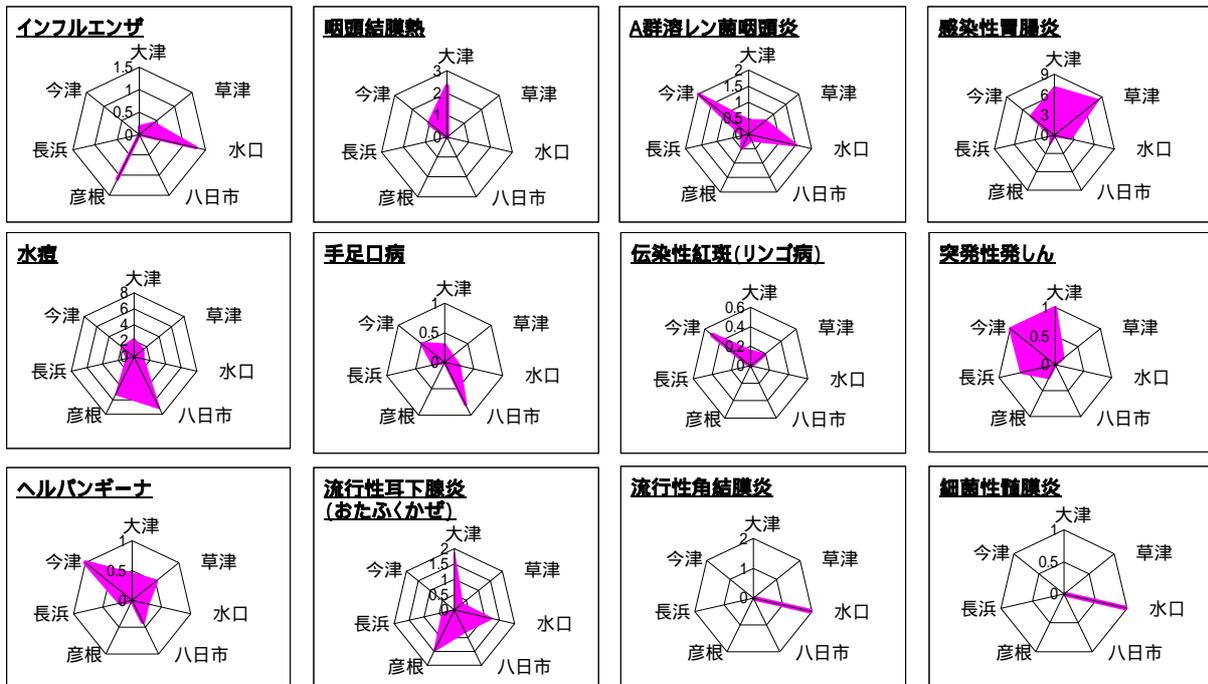
#### (1)疾病別・週別発生状況(第16～21週、4/18～5/29)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
	16週	17週	18週	19週	20週	21週	週				
	(4/18～)	(4/25～)	(5/2～)	(5/9～)	(5/16～)	(5/23～)	17	18	19	20	21
インフルエンザ	4.84	5.96	2.57	0.98	0.76	0.45					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0	0	0.24	0.39	0.45	0.55					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.55	0.73	0.39	0.88	0.91	0.64					
感染性胃腸炎	3.85	3.88	2.64	2.94	4.45	3.91					
水痘	1.58	1.76	1.79	2.18	1.36	2.91					
手足口病	0	0.06	0.12	0.18	0.39	0.30					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.06	0.09	0.06	0.09	0.09					
突発性発しん	0.36	0.24	0.30	0.27	0.61	0.42					
百日咳	0	0	0	0.03	0	0					
風しん(三日はしか)	0	0	0.03	0	0	0					
ヘルパンギーナ	0	0.15	0.09	0	0.27	0.36					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.52	0.58	0.82	0.85	0.94	0.97					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0.71	0	0.43	0.57	0	0.29					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0.14					
無菌性髄膜炎	0	0	0.14	0	0	0					
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第21週、5/23～5/29)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0.45	0.18	0.40	1.29	0	1.14	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.55	2.29	0	0	0	0	0	1.00	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.64	0.43	0.67	1.50	0.20	0.50	0.20	2.00	
感染性胃腸炎	3.91	7.14	8.33	2.50	0.20	1.50	0.60	4.50	
水痘	2.91	2.29	1.50	1.25	7.20	5.25	1.00	2.00	
手足口病	0.30	0.29	0.17	0.25	0.80	0	0.20	0.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0.14	0.17	0	0	0	0	0.50	
突発性発しん	0.42	1.00	0.17	0	0	0.25	0.60	1.00	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.36	0.43	0.50	0.25	0.40	0	0.20	1.00	
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.97	1.86	0.33	1.25	0.80	1.50	0.40	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.29	0	0	2.00	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。A群溶レン菌咽頭炎は先週、非常に多かった今津でかなり減少していますが、水口での発生はやや多くなっています。流行性耳下腺炎は水口および彦根で増加し、大津では先週に引き続き多くなっています。また、細菌性髄膜炎の発生については水口から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

\* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

\* 疾患により定点数は異なります。

### 3) 今週のトピックス

**水痘の発生は急増**  
**咽頭結膜熱の発生は増加傾向**  
**インフルエンザの発生は全国と同様に減少傾向**

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(5月16日～5月22日)の報告数とほぼ同じです。今週、増加を示した疾患は咽頭結膜熱、水痘、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎等です。また、インフルエンザ、A群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎等は減少しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

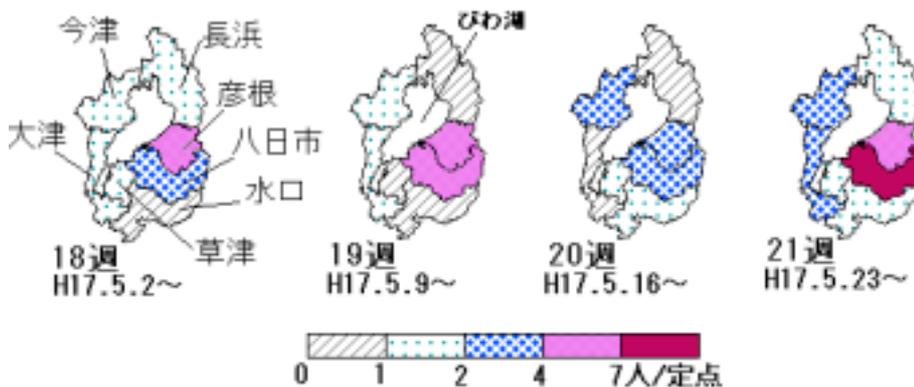
**インフルエンザ**については、先週の定点当たり患者数0.76よりさらに減少し0.45となっていますが、水口および彦根保健所管内における定点当たり患者数はそれぞれ1.29、1.14とやや多くなっています。

**咽頭結膜熱**については、先週の定点当たり患者数0.45より増加し0.55となっています。特に大津保健所管内の定点当たり患者数は2.29と先週に引き続き多くなっています。

**感染性胃腸炎**については、先週の定点当たり患者数4.45より減少し3.91となっていますが今津保健所管内においては、先週の定点当たり患者数2.00より急増し4.50となっています。

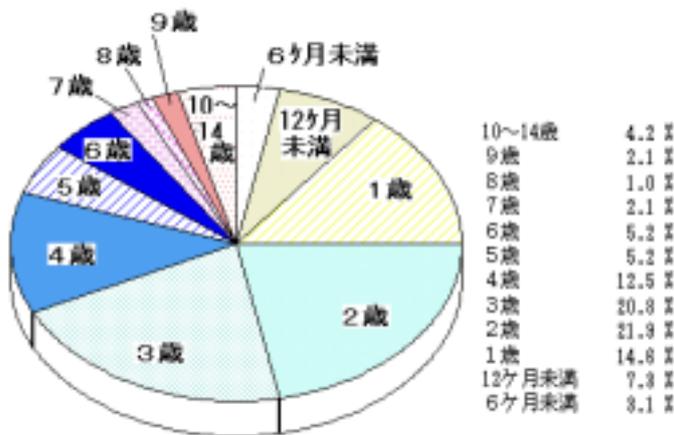
**水痘**については、先週の定点当たり患者数1.36より急増し2.91となっています。特に八日市および彦根保健所管内で多くっており、定点当たり患者数はそれぞれ7.20、5.25となっています。

#### 水痘の週別発生状況(平成 17年第18～21週、H17.5.2～H17.5.29)



平成17年第18～21週の発生状況についてみると、第20週はやや減少を示したものの増加傾向となっています。特に、第21週の八日市保健所管内の定点当たり患者数は7.20と非常に多くっており、今後の発生動向に注意する必要があります。

#### 水痘の年齢別発生状況(平成 17年第21週、H17.5.23～H17.5.29)



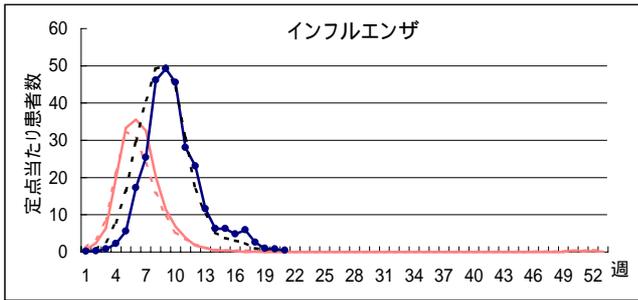
#### <水痘のミニ知識>

水痘帯状疱疹ウイルスに感染することにより起こる疾患で、罹患年齢は1～5歳に多くほとんどは9歳以下となっています。また、季節的には冬から夏に流行し秋には減少します。

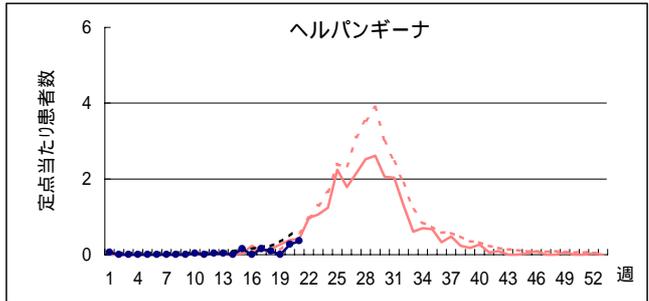
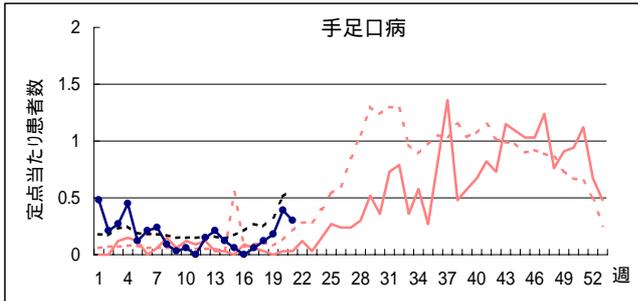
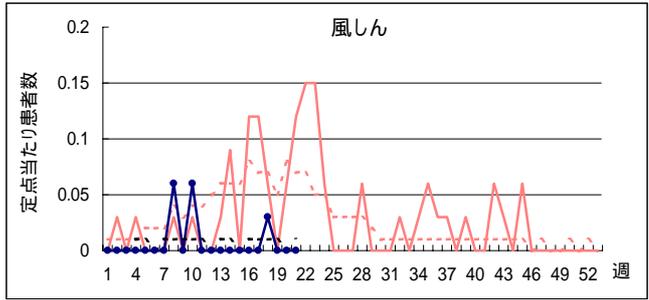
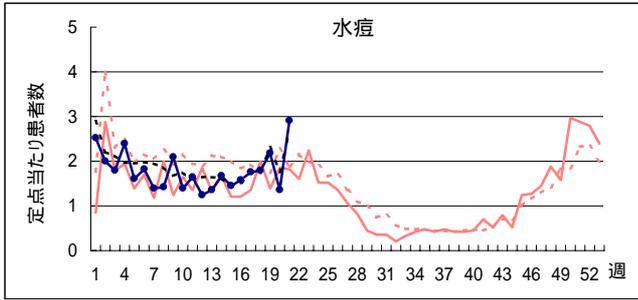
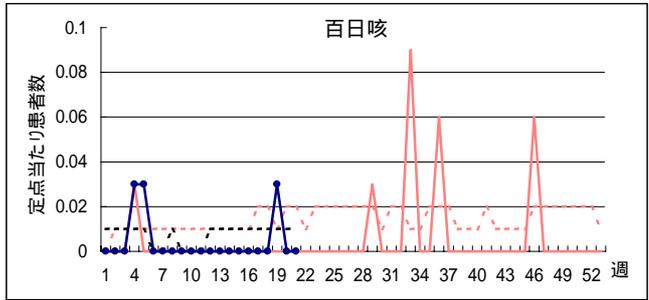
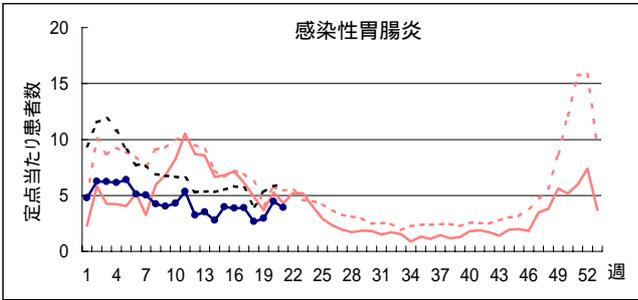
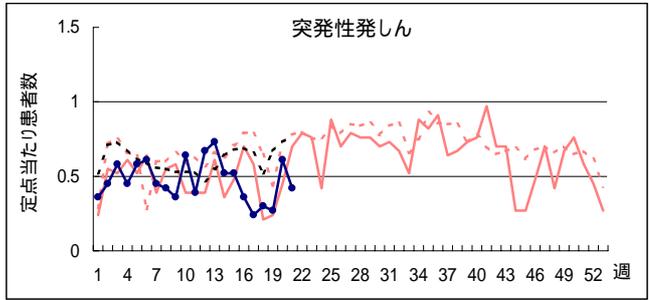
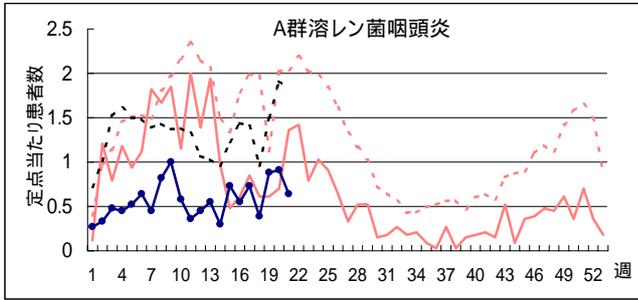
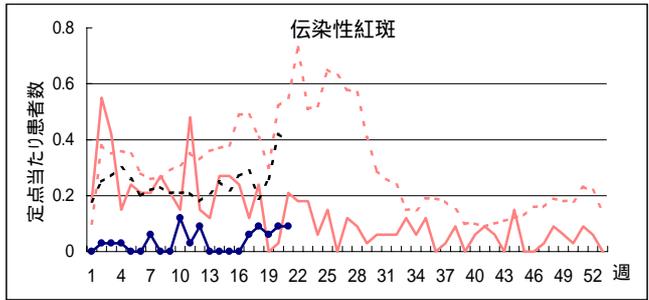
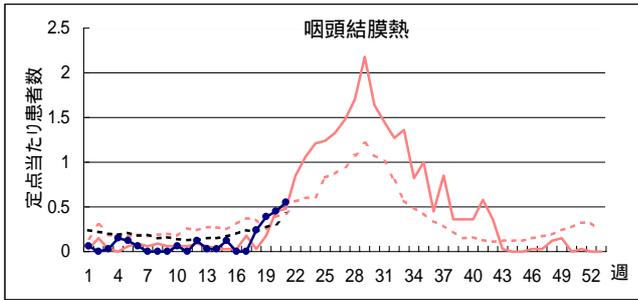
- ・感染様式: 直接接触等によるヒト-ヒト感染
- ・潜伏期: 10～20日(通常14～16日)
- ・臨床症状: 軽度の発熱、全身倦怠感、発疹(全身性で掻痒感を伴う)
- ・治療: 外用薬の使用
- ・予防: 感染源(患者、水痘内容物、気道分泌物等)との接触を避ける、水痘ワクチンの接種
- ・登校、登園のめやす: すべての発疹が痂皮化するまでは出席停止となっています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第21週、H17.1.3～H17.5.29)



H16 { 滋賀 (solid red line)  
       全国 (dotted red line)  
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
       全国 (dotted black line)



# 疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第21週、H17.1.3～H17.5.29)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

